

令和 4 年 6 月 14 日現在

機関番号：12613

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2021

課題番号：18K12499

研究課題名（和文）帝国経験のリアリティを伝える歴史研究・教育 開発主義と地域社会を軸に

研究課題名（英文）Historical research and education to convey the reality of the imperial experience

研究代表者

加藤 圭木 (KATO, Keiki)

一橋大学・大学院社会学研究科・准教授

研究者番号：40732368

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：現在まで、日本と東アジア諸国とのあいだで近代の戦争・植民地支配をめぐる葛藤が生じている。しかし、日本社会の人々、特に若い世代にとって日本の帝国経験はどこか遠くリアリティの感じられない出来事としてみなされている。本研究は帝国経験のリアリティを市民に伝えるために、以下の2つの課題にとりくんだ。

- （1）帝国日本の歴史を地域社会史・開発主義の視点で検討した。
- （2）歴史教育や教材開発の方法を考察し、それを踏まえて日韓歴史問題入門書を作成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、帝国日本の歴史、特に朝鮮植民地支配の歴史について、地域社会と開発主義の視点に基づき、詳細な検討をおこなった。このことを通じて、植民地の民衆の目線から歴史を考えるとともに、帝国経験が現代日本にどのような影響を残しているのかを考察することができた。

また、入門書や一般書の刊行を通じて、学界や市民社会に研究成果を還元することができた。シンポジウムの開催や教育現場との連携を通じて、帝国経験について学び議論する場を新たに築くことができた。

研究成果の概要（英文）：Conflicts over modern wars and colonial rule have persisted until the present day between East Asian countries. However, for Japanese society, especially for the younger generation, the Japanese imperial experience is viewed as an event that is somehow distant and lacking in a sense of reality. In order to convey the reality of the imperial experience to the Japanese public, this research has addressed the following two issues:

- (1) It has examined the history of imperial Japan from local social history and developmentalist perspectives.
- (2) It has examined the methods of history education and the development of teaching materials, and based on these findings, has created an introductory book on Japan-Korea historical issues.

研究分野：歴史学

キーワード：帝国 植民地 公害 開発主義 入門書 市民

## 1. 研究開始当初の背景

今日においても、朝鮮(大韓民国・朝鮮民主主義人民共和国)や中国など東アジアの諸国と日本の間には、今日に至るまで近代の戦争・植民地支配をめぐって厳しい葛藤が生じている。敗戦から75年ほどが経過し、世代交代が進む中で、植民地支配や戦争が今日も重大な問題として扱われていることは、日本の市民、特に若い世代のなかでは理解しがたいと感じる人が少なくない。戦争や植民地支配を論じることが、今日に生きる自分たちにとってどのような意味を持つのかが見えにくくなっており、歴史研究の側もその点を十分には伝えきれていないことがその一因である。帝国経験のリアリティを伝えることができる歴史研究・教育の方法を開発する必要がある。

近年、植民地支配を扱った研究では地域社会の視点から歴史を解明するものが増えている。これは、帝国経験のリアリティを伝えるうえでは有効であると考えられる。地域社会史の実証的研究を進展させていく必要がある。

そして、歴史研究においては、以上のような史料に基づいた緻密な実証が基礎にあることは言うまでもないが、上述した状況を踏まえれば、実証研究のさらなる進展に加えて、歴史を学ぶことの意味をさらにわかりやすく提示するとともに、歴史叙述や教材を意識しながら「歴史を伝える」方法を豊富化していく手法を開発していくことが必要不可欠である。特に、インターネット上やマスメディアにおいて、情報が錯綜し、一面的な議論が幅をきかせている東アジアをめぐる歴史認識の問題をめぐっては、こうした作業の重要性がますます増しているように思われる。

## 2. 研究の目的

本研究は、一般書の執筆や教材開発を念頭に置き、帝国経験のリアリティを伝える歴史研究・歴史教育の方法を探求する。

その際に重視するのは、地域社会の視点である。地域社会という場に、いかに帝国の経験が折り込まれているのかを明らかにし、それを叙述・教材化していくのである。

こうした作業を進めるにあたって、開発主義に注目する。一例をあげれば、チッソ株式会社(以下、チッソ)が公害病を引き起こした水俣に朝鮮からの引き揚げ者が多数存在したこと、チッソの前身である日室財閥が戦前に進出した朝鮮の興南においても公害等が発生していた事例などを手がかりとしながら、歴史認識を深める方法を模索する。

## 3. 研究の方法

(1) 帝国日本の植民地支配の歴史、さらに日本の開発主義の歴史について、地域社会史の視点で実証研究を深化させる。先行研究の検討や史料収集を実施するとともに、現地調査を実施する。また、このテーマに関して、韓国の歴史研究者との研究交流を深めていく。

(2) 歴史教育の方法や、歴史学と社会との関係について検討をおこなう。歴史教育の関係者を招くなどして、セミナーや研究会を開催し、議論を深める。また、学部学生との共同作業を通じて、歴史教育の方法論の検討し、歴史教材の開発をおこなう。

## 4. 研究成果

### (1) 地域社会史に関する研究

朝鮮・中国国境に焦点をあてて、そこで生きた人びとや社会のありようについて、考察を深めることができた。特に帝国主義への抵抗の動きと人びとの越境・生活との関係について、掘り下げることができた。

日室財閥と朝鮮半島の関係について、日室財閥が進出した都市の地方財政・地方政治とのかかわり、公娼制度との関係について、史料を収集し、実証を進めることができた。また、戦後の水俣における人びとの動向についても考察を進めることができた。

、の成果に加え、「軍事基地建設と地域社会」「同化政策と地域社会」「労働者斡旋と地域社会」などに関する検討をおこない、単著『紙に描いた「日の丸」一足下から見る朝鮮支配』(岩波書店、2021年)を刊行することができた。本書においては、(2)で論じる歴史教育の方法論の検討の成果も踏まえて、実証的な成果を盛り込むだけでなく、歴史叙述の方法についても工夫をおこなった。特に各章の冒頭に、研究代表者自身が朝鮮半島や水俣の現地を歩き、出会った人びとや体験のことを書き記すことで、歴史の学習にスムーズに入れるような歴史叙述を目指した。(1)の実証的研究と(2)の成果を合わせるという本研究の強みが発揮できた成果であるといえる。

朝鮮北部のイワシ漁業・加工業について、考察することができた。

以上の成果の前提として、韓国や日本国内における史料調査をおこなった。特に国家記録院などの調査を実施した。水俣や韓国での現地調査などを実施した。水俣では朝鮮から引き揚げ、水俣病を経験した方のお話をうがうことができたほか、水俣の人びとがアジアとどのように向き合ったのかについて史料を収集することができた。また、韓国では地方の歴史館などを見学することで、地域社会における歴史の語られ方を考察することができた。

## (2) 歴史教育の方法論、歴史学と社会の関係についての検討

日韓の市民運動やメディア、「明治 150 年」をめぐる動向、3・1 運動 100 年と日韓市民社会、日韓双方で社会的に影響力の強い歴史書籍の動向などの諸テーマについて考察することで、歴史学や歴史教育を含む歴史実践と社会との関係について、検討することができた。また、日韓の歴史認識問題をめぐってジャーナリストや学者・専門家がいかなる役割を果たしているのか、特に 2000 年代以降の動向を中心に考察を深めることができた。このテーマに関しては、韓国の研究者に報告してもらい、共同セミナーを実施することができた。

の一部に関して、歴史科学協議会大会などの学会で発表するとともに、論文や著作を刊行した。

学部学生との共同プロジェクトを実施し、日本社会の歴史認識や歴史教育の課題について検討するとともに、市民や若者のための日韓歴史問題入門書である『「日韓」のモヤモヤと大学生のわたし』（大月書店、2021 年）を作成し、刊行した。

に関して、市民向けセミナーを実施することができた。市民セミナーでは中学校教師の方を講師として招いた。オンラインで開催したセミナーでは、のべ 1000 人ほどの参加を得ることができた。また、韓国の大学（ソウル市立大学）や日中韓の市民共同シンポジウムにおいて、の成果を発表することができた。

日朝関係に関する高校生向けの授業プログラムを検討し、高校生と高校教員を招いて合同セミナーを開くことができた。

本研究課題の成果を踏まえて、市民の依頼に基づき、市民講座を多数実施した。

なお、本研究課題の 3 年目である 2020 年度からは新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、現地調査が困難になり、研究計画は大幅な見直しを迫られた。しかし、オンラインでの共同作業を重ねながら複数の著作を刊行するとともに、オンラインの市民向けセミナーなど新たな試みを実施し、大きな成果をあげることができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 加藤圭木	4. 巻 842
2. 論文標題 問われる植民地支配認識 変貌する朝鮮半島と日本	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 5-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤圭木	4. 巻 910
2. 論文標題 歴史に学び朝鮮半島との平和を築く	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史地理教育	6. 最初と最後の頁 54-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤圭木	4. 巻 51
2. 論文標題 日韓における『反日種族主義』現象	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人権と生活	6. 最初と最後の頁 6-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤圭木	4. 巻 86
2. 論文標題 豆満江の境界史 朝鮮植民地支配との関連から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 史潮	6. 最初と最後の頁 76-93
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤圭木	4. 巻 66
2. 論文標題 朝鮮植民地支配と国境地帯 会寧を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 史海	6. 最初と最後の頁 19 - 34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤圭木	4. 巻
2. 論文標題 朝鮮・日本の歴史認識と市民的協働 「韓国併合」一〇〇年をめぐる日韓の運動から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 菅豊・北條勝貴編『パブリック・ヒストリー入門』勉誠出版	6. 最初と最後の頁 267 - 283
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤圭木	4. 巻 234
2. 論文標題 植民地期朝鮮におけるイワシ漁業・加工業と統制政策 (一九二三～一九三一)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日韓相互認識	6. 最初と最後の頁 1-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 加藤圭木	4. 巻 1221
2. 論文標題 3・1独立運動の歴史的、今日的意義を探る	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 週刊金曜日	6. 最初と最後の頁 24-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤圭木	4. 巻 891
2. 論文標題 三・一運動100年から何を学ぶか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史地理教育	6. 最初と最後の頁 4-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤圭木	4. 巻 11
2. 論文標題 近代日本と植民地の公害	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 環境思想・教育研究	6. 最初と最後の頁 8-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤圭木	4. 巻 234
2. 論文標題 歴史認識・歴史教育をめぐる同時代史：日本軍「慰安婦」問題に取り組んだ経験から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 歴史科学	6. 最初と最後の頁 20-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤圭木	4. 巻 101
2. 論文標題 日本軍「慰安婦」問題と向き合うために	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 季刊セクシュアリティ	6. 最初と最後の頁 26-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 加藤圭木
2. 発表標題 問われる植民地支配認識 - 変貌する朝鮮半島と日本 -
3. 学会等名 歴史科学協議会大会第53回大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加藤圭木
2. 発表標題 朝鮮植民地支配と国境地帯 会寧の変容を中心に
3. 学会等名 東京学芸大学史学会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加藤圭木
2. 発表標題 日本の歴史認識と大学生がつくった日韓関係入門書(原文:朝鮮語)
3. 学会等名 韓国・ソウル市立大学校2021人文大学校名士招請講演（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 加藤圭木
2. 発表標題 大学生が向き合う加害の歴史 『「日韓」のモヤモヤと大学生のわたし』を刊行して
3. 学会等名 第19回「歴史認識と東アジアの平和」フォーラム・北京会議（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計8件

<p>1. 著者名 方法論懇話会編、北條勝貴、岡本雅享、是澤櫻子、加藤圭木、佐藤壮広、川端浩平、工藤健一、杉浦鈴、須田 努、西村 明、内田 力、門屋 温、アングソヴァ・マラル (Andassova Maral)、土居 浩、黒田 智、師 茂樹、池田敏宏、水口幹記</p>	<p>4. 発行年 2020年</p>
<p>2. 出版社 森話社</p>	<p>5. 総ページ数 336</p>
<p>3. 書名 療法としての歴史 知 : 症例04 日本人は アジア諸国から不当に攻撃 されているのか 反日 という妄想 (加藤圭木)</p>	
<p>1. 著者名 内海愛子、吉澤文寿、川上詩朗、吉澤文寿、太田修、加藤圭木、殿平善彦、本庄十喜、慎蒼宇、佐藤広美、加藤直樹、原田敬一</p>	<p>4. 発行年 2020年</p>
<p>2. 出版社 新日本出版社</p>	<p>5. 総ページ数 256</p>
<p>3. 書名 日韓の歴史問題をどう読み解くか：問われているのは日本の植民地支配への反省 (加藤圭木)</p>	
<p>1. 著者名 岡本有佳・加藤圭木</p>	<p>4. 発行年 2019年</p>
<p>2. 出版社 大月書店</p>	<p>5. 総ページ数 168</p>
<p>3. 書名 だれが日韓「対立」をつくったのか 徴用工・「慰安婦」、そしてメディア</p>	
<p>1. 著者名 日本史研究会、歴史科学協議会、歴史学研究会、歴史教育者協議会、原田敬一、石居人也、関原正裕、横山伊徳、加藤圭木、割田聖史、平井和子、長志珠絵、大江洋代</p>	<p>4. 発行年 2018年</p>
<p>2. 出版社 岩波書店</p>	<p>5. 総ページ数 272</p>
<p>3. 書名 創られた明治、創られる明治 「明治150年」が問いかけるもの：第5章「明治150年」と朝鮮 (加藤圭木)</p>	



1. 著者名 韓国歴史研究会3.1運動100周年記念企画委員会	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ヒューマニスト(韓国)	5. 総ページ数 339
3. 書名 3.1運動100年 4巻 空間と社会：第6章 韓国東北部の社会変容と3.1運動(加藤圭木、原文朝鮮語)	

1. 著者名 日本植民地研究会、駒込 武、松田利彦、加藤圭木、竹内祐介、須永徳武、平山 勉、清水美里、李海訓、安達宏昭、大浜郁子、湊 照宏、金富子、都留俊太郎、細谷亨、古川宣子、鈴木哲造、青野正明、青井哲人、波田野節子、三ツ井 崇、宮本正明、兒玉州平、吉井文美、水谷智、脇村孝平、飯倉江里衣、谷ヶ城秀吉	4. 発行年 2019年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 320
3. 書名 日本植民地研究の論点：第3章 被支配者の主体性(加藤圭木)	

1. 著者名 加藤 圭木、一橋大学社会学部加藤圭木ゼミナール	4. 発行年 2021年
2. 出版社 大月書店	5. 総ページ数 184
3. 書名 「日韓」のモヤモヤと大学生のわたし	

1. 著者名 加藤 圭木	4. 発行年 2021年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 244
3. 書名 紙に描いた「日の丸」 足下から見る朝鮮支配	

[ 産業財産権 ]

[ その他 ]

-

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------